



清水小だより

清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

ステージは「春」から「夏」へ

6月から学校は「春」ステージ（整える）から「夏」ステージ（試す）へと変わります。3月から続いた春ステージですが、何と云っても運動会が秋へと移動したことで、入学・進学の時節を子ども達のペースに合わせた活動を行えたことが印象的でした。各学級では、学級目標の掲示づくりを車座になって話合っていたり、教材とじっくり向かい合って考えたりする姿が見られました。また、スタートプログラム（原則的に高学年も5時間で下校）にご協力いただきありがとうございました。放課後の職員室では、学年や指導部で集まって、熱心に授業づくりを話し合ったり、子ども達の情報を共有してよりよい関わりについて研修を深めたりすることができました。

「夏」ステージは、子ども達が「試す」＝「挑戦する・やってみる」ことを繰り返す段階です。現代社会の問題点のひとつとして語られることの多い「不寛容性（小さな過ちや、自分と違う価値観を許せない状態）」の影響でしょうか、子ども達の中にも、すぐに正解を知りたがる、人と違う考え方や行動に不安を感じる、新しい出会いや出来事に積極的に関われないなどの表れが見られます。「夏」ステージでは、子ども達が「やってみたい」「変えてみたい」ことに積極的に挑戦してくれることを期待しています。また、学校はその環境を整えるために、以下のことについて重点的に取り組みます。

- ① 授業では、子ども達の問題づくり、計画づくりに十分な時間を設けます。
- ② 学級内で安心して発言できるように特に「聞く力」の育成に努めます。
- ③ カーニバルをとおして子どもの「やってみたい」が可能な限り形になるよう一緒に考えます。
- ④ 過ちや、失敗が子ども自身の成長につながるよう、「なぜそうなったか」をふりかえるだけでなく「どうしたかったか」に耳を傾けます。
- ⑤ 学習や生活上の準備や環境を職員が整えすぎることがないようにし、子ども自身の判断や経験の蓄積を大切にします。
- ⑥ 重点目標「動きだす子」の達成に向け「動きだそうとする」子どもの瞬間を見逃さずに価値付けられるように努めます。

「試す」ことは、結果が保証されないことへの取り組みです。上手くいかないことが続いて、自信をなくしてしまったり、友達とトラブルになったりすることもあります。家で不満を話すこともあると思います。そのようなときは、ぜひ、お子さんの声に十分に耳を傾けていただいた上で、多様な視点や考え方、価値観があることを教えてあげたり、見守ってあげたりしてください。そして、必要に応じて保護者の方だからこそわかるその子の考え方の傾向や、悩むポイントなどを担任に教えてもらえるとありがたいです。子どもの豊かな成長と学びのために、家庭と学校が連携できるよう、よろしくお願いいたします。

校長 武藤 剛

天気予報によると、今年の梅雨は短期集中型のようなようです。荒天時の登校判断は、朝6時30分の警報によりませんが、最近は警報が出ていなくても、局地的に雨や風が強まることがあります。同じ町内でも、雨の様子が大きく違うこともしばしばで予測ができません。家を出るときに風雨が強く危険だと感じた場合は、家庭の判断で登校を見合わせてください。また、その場合は、C4thで学校にお知らせください。

「不寛容性」という言葉を聞いて思い出すこと・・・

前頁に書かれている「不寛容性」という言葉を聞いて思い出すことがあります。私（教頭）は、2016年度から3年間、オランダにあるロッテルダム日本人学校に在外派遣教員として勤務していました。オランダから、直近に勤務していた小学校の子供たちに向けてオランダのことを紹介するお便りを送っていました。その最終号に、こんなことを書きました。

先生は「外国人」として、オランダでくらししました。でもただの1度も「外国人あつかい」されたり、いやな思いをしたりしたことはありませんでした。前にも書きましたが、道ですれちがえば、たとえ知らない人でも「こんにちは」と笑顔であいさつをかわしてくれます。そして道ですれちがう人たちの多くが、とてもニコニコで心によゆうがある表情をしていて、幸せそうに見えます。オランダには世界中の様々な国や地いきからきた人が住んでいて、街の中に、アフリカから来た人、アジアから来た人、中南米から来た人、中東から来た人がふつうに生活しています。だからこそ、「みんなちがって当たり前」という気持ちをオランダの人はもっているのだと思います。また、オランダはLGBTと言われる性的マイノリティー（男か女かの体と心がちがったり、同じ性の人を好きになったり…）の人たちにも、とても「やさしい国」だといわれています。日本はどうでしょう？「自分とちがう」ことをすると文句を言ったり、さべつをしたりする人が多くないですか。オランダの人から「ちがいをみとめて、それをうけ入れることのできる心の広さ」を日本人は学ぶところが多いと思います。

今年度、一緒に書写を学んでいる6-2の子供たちにも、最初の授業でオランダの学校について少し話をしました。授業後のリフレクション（ふり返り）には

- ・「オランダの学校には日本ではあたりまえのことがなかったり、みんなで違ったやり方で授業を進められたりできる学校が素敵だと思った。」
- ・「オランダの学校は一つ一つ違いを持っていました。オランダは違いを大切にすることを知った。」
- ・「日本もオランダみたいに違う価値観を共有して子供にも大人にも幸せな国になってほしいです。」

と、よい気づきを書いていました。違いに対して寛容になるためには、まず違いがあることを知ることが第一歩です。清水小（清水町全体では更にです）には外国籍の児童も多く在籍し、日常的に「違い」に触れています。違いがあることを知り、それを尊重し合うよさを学ぶには、清水町（清水小）は絶好の場所だと思うのです。いわゆる「同調圧力」が、まだまだ根強い日本社会ですが「違っていることにこそ価値がある」という考え方を子供たちにも投げかけていきたいです。「異なるもの」への寛容さは、グローバル化していく社会の中で、大切な資質の1つです。

【御理解ください！】C4+hの欠席連絡や連絡帳への送信タイミングについて

御家庭と学校との連絡手段がC4+hに一本化され、しばらく経ちました。「連絡帳」もデジタル化され、利便性が高まりましたが、各担任は、常に御家庭からの着信を確認できる訳でなく（特に子供たちが在校中は難しいです）、返信が必要な際に、タイムラグが生じることがあることを御理解ください。

また、「欠席・遅刻連絡」がある場合は、子供たちの朝の確実な学校到着確認のためにも、お早めに御連絡ください。よろしく願いいたします。

教えてください！「学校だより」に、どんな情報を期待されますか

学校からのお便りには、この学校だより、毎月出される学年だよりや給食だよりなどがあります。情報発信手段としては、学校ブログもあります。ブログでは、日々の子供たちの様子を御紹介していますので、是非御覧ください。この学校だよりでは、学校の目指す子供たちの姿や、これからの時代に求められる新しい教育観や子育て観なども御紹介できればと考えています。同時に、双方向型の紙面づくりをしていきたいと考えておりますので、「こんな内容が知りたい」「こんな情報に期待する」という御意見・御要望がありましたら、以下のフォームよりお知らせいただければ幸いです（随時、募集します）。

連絡フォーム < <https://forms.gle/uGooTIKHQanuIldr8> >